

1 計画の目的

- 本町は、平成27年に「門川町地域公共交通網形成計画」を策定し、計画期間は平成28年から令和元年までの5年となっています。「門川町地域公共交通網形成計画」に基づく事業の実施状況及び目標達成状況についての評価を行い、本町を取り巻く公共交通の現状・課題を分析し、持続可能な公共交通ネットワークの全体像を示す「門川町地域公共交通計画」を策定することを目的とします。

2 計画の区域

- 計画区域は、門川町全域と定めます。
- 計画区域内には、運行費の国庫補助を受ける「町外との往来を目的とする地域間幹線系統」と「幹線に接続して町内での移動を目的とする支線系統（フィーダー）」が存在します。



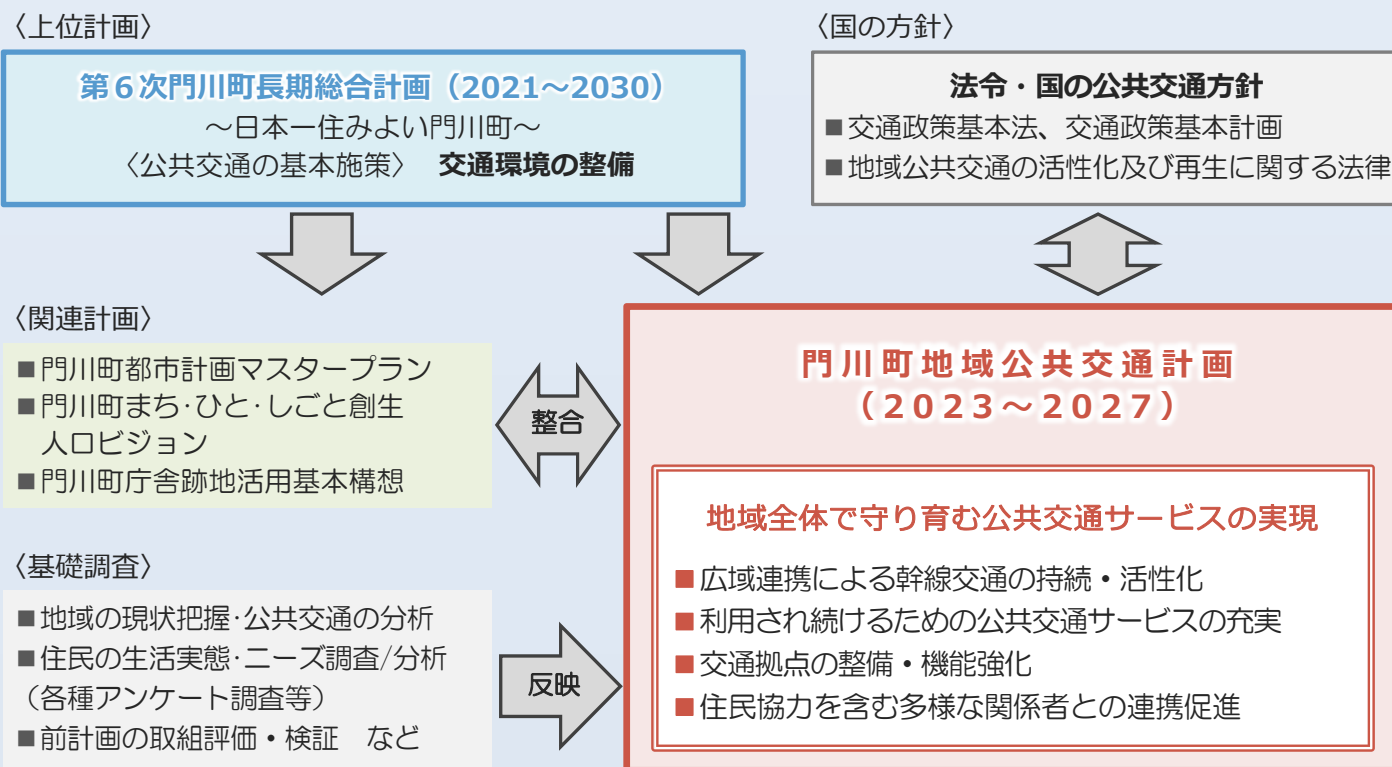
図 計画区域

3 計画の期間

- 計画の対象期間は、令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）の5箇年とします。

4 計画の位置付け

- 本計画は、本町の最上位計画である「第6次門川町長期総合計画」を上位計画とし、同計画の将来像『日本一住みよい門川町』の実現を見据えた方針等を定めます。



5 公共交通の果たすべき役割・課題

- まちが目指す将来像 第6次門川町長期総合計画
- 快適生活のまちづくり ～交通環境の整備～
- 廃止路線における代替バス運行補助やバス利用促進事業
 - 日向・東臼杵市町村振興協議会などの広域連携
 - 交通空白地域における交通手段の確保

■ 本町における公共交通の果たすべき役割

- 市町村間の広域的な人の移動を支える（町民の暮らしを支える）役割
- 生活利便性を高めるために使いやすいサービスを提供する役割
- 公共交通空白地域に暮らす町民の生活利便性を確保する役割
- 自家用車利用を中心とする町民の意識・行動の転換を促す役割

〈地域公共交通に関する現状・取り組むべき課題〉

社会情勢の変化 人口減少・高齢化、コロナ禍、まちづくり等

- 人口減少・高齢化社会・免許返納に伴う交通弱者増加への対策
- アフターコロナを見据えた新たな利用者の開拓・観光アクセスの提供
- 持続可能なまちづくりの実現に向けた庁舎跡地活用との連動

町民のニーズ・特性 自家用車依存、公共交通事業の存続、サービスの充実等

- 自家用車に依存したライフスタイルの実態
- 公共交通サービス事業の継続意向
- 町民の生活行動に応じた提供サービスの充実・交通弱者への対策
- 交通拠点（JR門川駅）における乗り継ぎ利便性の向上

公共交通の利便性 広域ネットワークの維持・活性化、利便性の向上等

- 周辺市町村間の移動を支える広域ネットワークの活性化
- 利用者ニーズに対応した公共交通の利便性向上
- 住民の協力を含む新たな需要の獲得に向けたサービスの向上

公共交通の持続性 既存公共交通サービス水準の維持、利用促進等

- 地域間の移動を支える路線バスの運行サービス水準の維持
- 乗合タクシーの運行効率化による提供サービスの維持
- 持続可能な公共交通の運行に向けた収支の改善
- 公共交通を使って知ってもらおうきっかけづくりの促進

6 基本的な方針及び計画目標

基本的な方針：地域全体で守り育てる公共交通サービスの実現

- まちづくりと一体となった生活交通の確保・維持
- 公共交通の相互の連携・役割分担による持続性の確保
- 地域の実情・利用者目線に合わせた交通サービスの充実
- 多様な関係者との連携・役割の明確化と一体的な実践



目標1 広域連携による幹線交通の持続・活性化

町内外（地域間）の移動・交流を支える広域幹線交通・地域間幹線交通は、既存のサービス水準を維持していくために、鉄道の利用環境の充実・利用促進、路線バスの広域的な連携（沿線市町村との連携）による利用促進等に取り組むことを目指します。

目標2 利用され続けるための公共交通サービスの充実

高齢者の生活交通として根付いてきつつある乗合タクシーは、今後高齢化社会の進行に伴い、需要の増加が予想されます。移り変わる住民のニーズや生活行動に合わせて、乗合タクシーの利便性向上に取り組み、利用され続けるための公共交通サービスの充実を目指します。

目標3 交通拠点の整備・機能強化

JR門川駅は、鉄道や路線バス、乗合タクシーなどの様々な交通が結節する交通拠点として位置付けられています。交通拠点としての機能強化を図るために、鉄道⇄路線バス・乗合タクシーの乗り継ぎ案内や公共交通全体の情報発信等に取り組むことを目指します。

目標4 住民協力を含む多様な関係者との連携促進

公共交通サービスは、通勤・通学者をはじめ、高齢者の通院・買い物、免許返納後の移動手段として欠かせないものであり、行政や交通事業者、利用者となる町民など、地域関係者が連携・協力しながら、地域全体で守り育てていく公共交通サービスの提供を目指します。

7 実施事業の体系

〈事業の体系〉

事業1 生活利便性を支える広域幹線交通のサービス継続

- 主要なターゲット層に焦点を当てた鉄道の利用促進

〈実施主体〉

- 門川町
- 高校関係者等

事業2 広域連携による幹線バスの維持・活性化

- 沿線市町村と連携したバスの利用促進
- 路線の維持に向けた継続的な運行支援

- 門川町
- バス・タクシー事業者
- 沿線市町村

事業3 住民の生活行動や利用実態に応じた乗合タクシーサービスの改善

- 利用実態・交通弱者等に対応したサービスの見直し
- 利用低迷路線の解消に向けたサービス改善（利便性の向上）

- 門川町
- タクシー事業者

事業4 利用実態に応じた運行サービスの最適化

- 利用が低迷する乗り場の沿線住民ニーズの把握
- 利用超過区間への対策検討（牧山線、大迫・庵川線）

- 門川町
- タクシー事業者
- 地域住民

事業5 持続可能な公共交通サービスの構築

- 新規需要の獲得に向けた住民全体への周知（高齢者重点）
- 路線の見直し基準の再設定・継続的な周知
- 乗合タクシー車両の環境整備（補助ステップ設置等）

- 門川町
- タクシー事業者
- 地域住民

事業6 交通拠点における公共交通の情報案内の強化

- 異なる公共交通モード間の乗継利便性の向上
- JR門川駅における情報案内の充実

- 門川町
- 鉄道・バス・タクシー事業者
- 観光協会

事業7 庁舎跡地活用と連動した取組の推進

- 交通拠点としての機能整備

- 門川町
- 関係者部署

事業8 持続可能な公共交通サービスの構築

- 主要施設内における公共交通の情報発信
- 買い物・通院施設と連携した公共交通の乗車体験の企画
- 移動販売「とくし丸」と乗合タクシーの連携強化
- 将来の移動を見据えた乗り方教室の実施・利用意識の醸成

- 門川町
- バス・タクシー事業者
- 施設関係者
- 関連部署

事業9 他分野と連携した利用促進・利用者の口コミ等を通じた公共交通のPR

- 広報誌・地区回覧等を通じた公共交通の情報発信
- 公共交通利用者を含めた地域座談会の開催
- 観光・福祉等の他分野と連携した公共交通の利用促進

- 門川町
- 観光・福祉関連部署
- 地域住民

8 事業の取組内容及び達成状況を評価するための目標指標（1/2）

目標1 広域連携による幹線交通の持続・活性化

事業1 生活利便性を支える広域幹線交通のサービス継続

取組① 主要なターゲット層に焦点を当てた鉄道の利用促進

- 主な利用者層である高校生を対象とした利用促進
- 会社員や公務員の通勤目的の利用も多ことから、現状の生活スタイルにおいて賢く公共交通を使ってもらうパークアンドライドやサイクルアンドライドの周知



学生主体の利用促進の事例 パーク・サイクル＆ライドの利用促進

事業2 広域連携による幹線バスの維持・活性化

取組① 沿線市町村と連携したバスの利用促進

- 沿線市町村・交通事業者と連携した各路線の利用回復・活性化に向けた利用促進事業の検討・実施

取組② 路線の維持に向けた継続的な運行支援

- 日向-延岡線及び日向-小原線について、継続的な運行支援（財政負担）を行いながらサービス水準を維持



複数市町村における公共交通マップの作成事例

達成状況を評価するための指標

目標値① - 広域幹線交通（JR門川駅）における利用者の回復

指標：門川駅の乗車人数 現況：368人/日 目標：395人/日以上 ↑

〈目標値の考え方〉

公共交通の衰退がもたらす『負の循環』を公共交通が維持・存続できる『正の循環』に転換していくことを目指していきます。現状値は、コロナ禍前の90%水準まで回復しており、今後は利用促進等に取り組みながらコロナ禍前の実績を目標値として設定します。

目標値② - 門川町内における路線バス利用者数の増加と路線全体の収支率の向上

指標：町内バス停の1日平均乗降客数 現況：54.3人/日 目標：54.3人/日以上 ↑

指標：日向-延岡線の収支率 現況：56.8% 目標：56.8%以上 ↑

〈目標値の考え方〉

沿線市町村との連携による路線バスの利用促進に取り組みつつ、門川町内における路線バスの利用者（乗降）増加を目指して路線の活性化（利用者増加・収支向上）を目標値として設定します。

目標2 利用され続けるための公共交通サービスの充実

事業3 住民の生活行動や利用実態に応じた乗合タクシーサービスの改善

取組① 利用実態・交通弱者等に対応したサービスの見直し

各路線の便別利用状況

- 往路に比べて、復路の利用が少ない状況であるため、利用者ニーズと車両の配車状況等を踏まえて、ダイヤの改善（復路）について検討

路線名	便	便平均	路線名	便平均	路線名	便平均	路線名	便平均
牧山線 (月・水)	往路1	11.4	大迫・ 庵川線 (水)	5.0	竹名・ 中村線 (金)	4.4	中山・五十鈴/ 大池・中山線 (火)	3.2
	往路2	3.8		1.7		5.2		5.7
	復路1	10.0	4.6	4.3	4.1			
	復路2	1.4	0.9	1.6	1.1			

取組② 利用低迷路線の解消に向けたサービス改善（利便性の向上）

- 三ヶ瀬線について、町中心部までのアクセスと運賃の見直し等について検討

事業4 利用実態に応じた運行サービスの最適化

取組① 利用が低迷する乗り場の沿線住民ニーズの把握

- 大迫地区・中山地区において、利用しづらい理由（ルート・目的地等）の把握

取組② 利用超過区間への対策検討（牧山線、大迫・庵川線）

事業5 持続可能な公共交通サービスの構築

取組① 新規需要の獲得に向けた住民全体への周知（高齢者重点）

- 新たな需要の獲得に向けて、地区の区長を通じて高齢者事故の危険性や免許返納特典等の情報提供を含めた公共交通の運行情報に関する情報発信

取組② 路線の見直し基準の再設定・継続的な周知

取組③ 乗合タクシー車両の環境整備（補助ステップ設置等）

- 乗車時の上り台設置の安全性に関する要望、高齢化の進展に合わせて乗降の環境整備について検討

達成状況を評価するための指標

目標値③ - 乗合タクシーの運行水準の維持

指標：1日あたりの運行便数（全路線） 現況：4-6便/日 目標：現状維持 ⇨

〈目標値の考え方〉

利用者のニーズ等を踏まえた利便性の向上や利用経験のない方への利用促進に取り組み、持続可能なサービスの提供を目指して、運行水準の維持を目標として設定します。

目標値④ - 乗合タクシー利用者の回復・利用者1人あたりの財政負担額の抑制

指標：乗合タクシーの利用者数 現況：5,262人/年 目標：6,017人/年以上 ↑

指標：利用者1人あたりの財政負担額 現況：1,471円/人 目標：1,471円/人未満 ↑

〈目標値の考え方〉

乗合タクシー利用者数はコロナ禍前の90%水準までの回復を目指し、利用実態に応じた運行サービスの最適化を図りながら利用者1人あたりの財政負担額の抑制を目標として設定します。

8 事業の取組内容及び達成状況を評価するための目標指標（2/2）

目標3 交通拠点の整備・機能強化

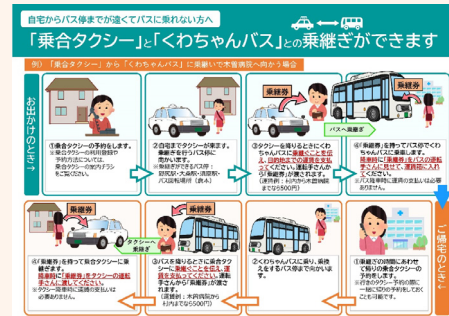
事業6 交通拠点における公共交通の情報案内の強化

取組①異なる公共交通モード間の乗継利便性の向上

- 利用者にとって分かりやすい乗継情報の案内や周知に取り組み、乗継利便性の向上を図る

取組②JR門川駅における情報案内の充実

- 公共交通の情報に関して駅利用者の目に触れる機会を創出することを目的として、公共交通ガイドブックの設置を検討



交通機能の例

事業7 庁舎跡地活用と連動した取組の推進

取組①交通拠点としての機能整備

- 交通拠点と位置づけられた際には、公共交通モード間の乗継ぎ利便性の向上やバス等の待合環境の充実など、交通拠点としての機能整備に取り組む

■ 達成状況を評価するための指標

目標値⑤ - 交通拠点における乗継ぎや公共交通に関する情報発信の取組数

指標：乗継ぎや公共交通に関する情報発信の取組み数 現況：0件 目標：3件以上 ↑

〈目標値の考え方〉

町民や町外の来訪者が利用する門川駅において、交通拠点の整備・機能強化を図るために他の交通への乗継ぎ案内の情報提供や町の公共交通全体の周知などの情報発信を行うことを目標として設定します。

目標4 住民協力を含む多様な関係者との連携促進

事業8 多様な関係者と連携した利用促進事業の展開

取組①主要施設内における公共交通の情報発信

- 施設内における公共交通ガイドブックの設置など、公共交通に関する情報発信の強化

取組②買い物・通院施設と連携した公共交通の乗車体験の企画

- 高齢者を対象とした買い物などのお出かけ企画や通院やリハビリ等と公共交通の利用を連携した取組について、利用者層に合わせた利用促進企画



乗車体験

取組③移動販売「とくし丸」と乗合タクシーの連携強化

- 乗合タクシーとの役割分担を明確にして、上手く使い分けられるように連携を強化（週2回の移動販売）

取組④将来の移動を見据えた乗り方教室の実施・利用意識の醸成

- 公共交通を知って移動手段として考えてもらい、地域全体で公共交通を守り育てるための意識づくり

事業9 他分野と連携した利用促進・利用者の口コミ等を通じた公共交通のPR

取組①広報誌・地区回覧等を通じた公共交通の情報発信

- 広報誌や地区回覧等を通じて、公共交通に関する情報発信
- 既存の公共交通ガイドブックの更新やサービス低下の要因となる交通事業者の人材不足の解消に向けた運転手募集のPR

取組②公共交通利用者を含めた地域座談会の開催

- 新たな需要の獲得に向けて、普段から公共交通を使っている方と普段は自家用車を使用していて公共交通を利用していない方の双方が参加する地域座談会を開催

取組③観光・福祉等の他分野と連携した公共交通の利用促進

- 福祉分野と連携して公共交通に関する情報提供（運行情報や乗り方等）を提供することで、乗合タクシーの普及・利用案内活動の強化を図り、高齢者の外出促進等を推進



広報誌を活用したPRの事例



住民座談会

■ 達成状況を評価するための指標

目標値⑥ - 他の分野と連携した利用促進事業の取組み数

指標：他の分野と連携した利用促進事業の取組み数 現況：- 目標：5件 ↑

〈目標値の考え方〉

交通以外の他分野（商業施設・病院・観光・福祉等）と連携しながら、公共交通を取り巻く多様な関係者と協力して利用促進・お出かけ企画等に取り組み、町民を含めて地域全体で守り育てる公共交通サービスの実現を目標として設定します

目標値⑦ - 公共交通利用のきっかけを促す啓発活動の実施回数

指標：公共交通利用のきっかけを促す啓発活動の実施回数 現況：- 目標：10回 ↑

〈目標値の考え方〉

自家用車を中心に移動している高齢者等に向けて、公共交通の利用を考えてもらうきっかけづくりとして、様々な媒体を活用した公共交通の情報提供や町民との公共交通の利用状況の共有を図り、持続可能性を高めていくことを目標として設定します。

目標値⑧ - 高齢者の公乗合タクシー利用割合の増加

指標：高齢者の乗合タクシー利用割合 現況：4.3% 目標：10%以上 ↑

〈目標値の考え方〉

過度に自家用車に頼る状態から公共交通を「かしこく」使う方向へと自発的に転換するように促すための利用促進に取り組み、新規需要の獲得を目標に今後5年以内に免許返納の考えがある割合を増加することとして設定します。